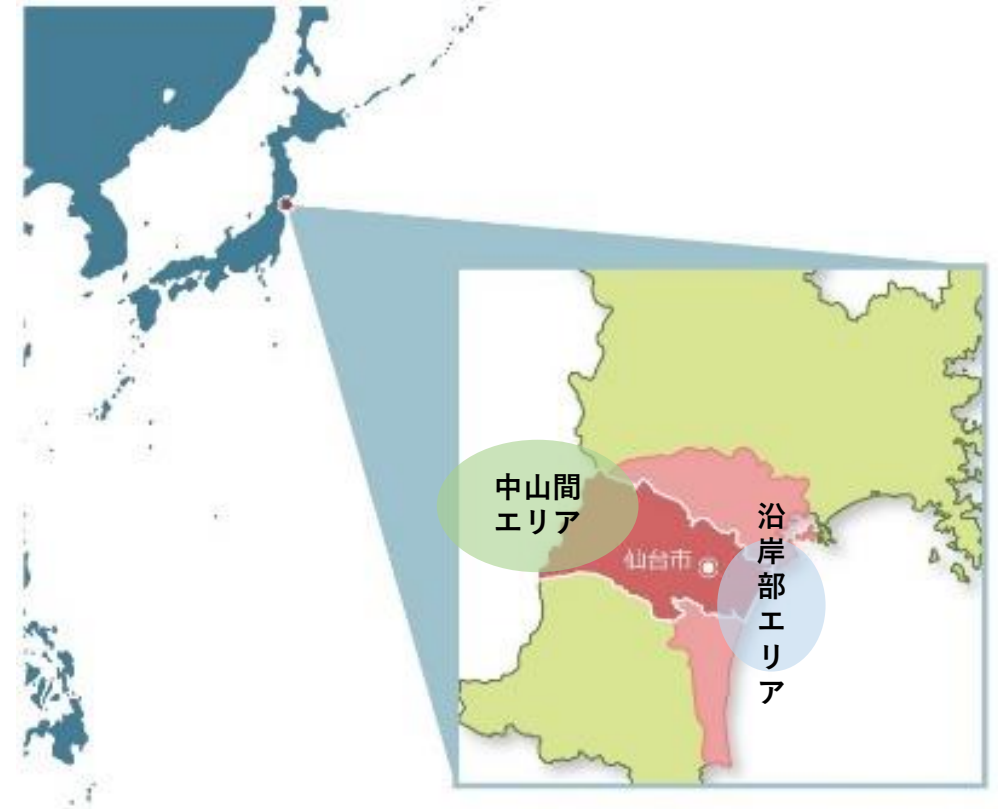


診療カーによるオンライン診療の推進

仙台市×NTT東日本

仙台市を取り巻く環境

- 東北の中枢に位置し**109万人**の人口を擁する
- 都市圏には東北大学をはじめ100校以上の高等教育機関が集積し、多くの学生が学ぶ「**学都**」
- 震災後、多様な人材が流入
- 一方で、東北全体における**人口減少・高齢化等**の課題は顕著

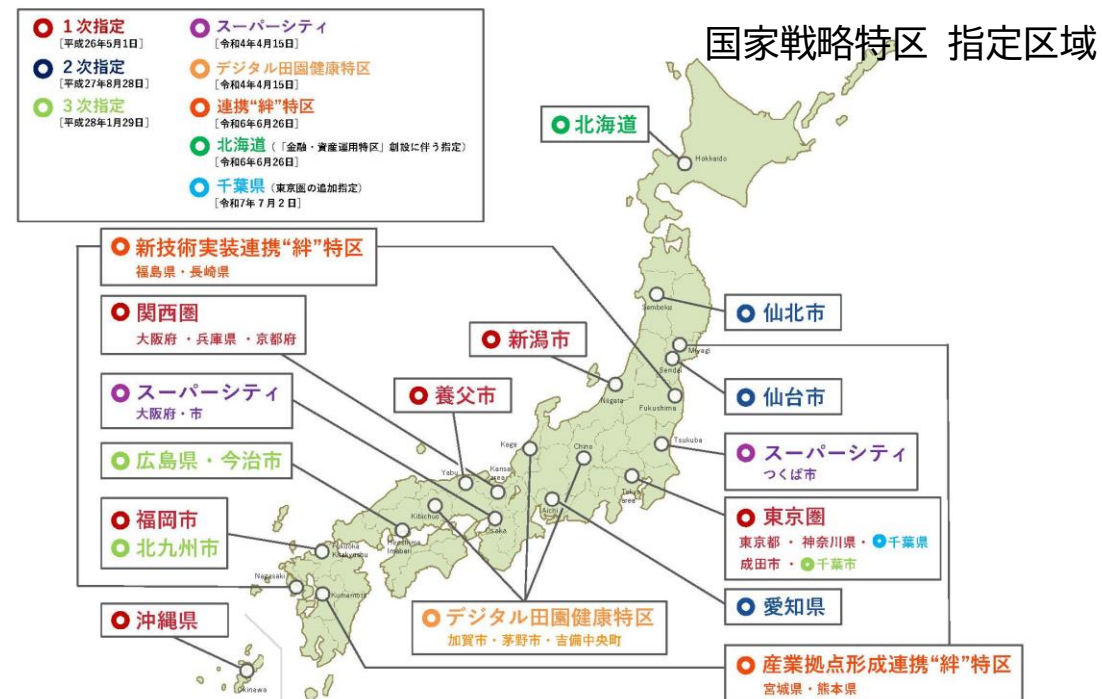


産学官連携による仙台・東北の地域課題の解決を推進

国家戦略特区（仙台特区）

国家戦略特区とは

- 国が指定した地域において、国・自治体・事業者が一体となって法律などに風穴を開け、規制改革を進めることによって、事業者の活躍を促進する制度。
- 仙台市は平成27年に指定を受け、「世界で一番ビジネスをしやすい環境」を作ることを目指している。



仙台特区 では

震災後の社会起業家の増加、女性の起業意欲向上、東北大学等との連携による近未来技術の実証
「女性活躍・社会起業のための改革拠点」をテーマに規制改革を推進

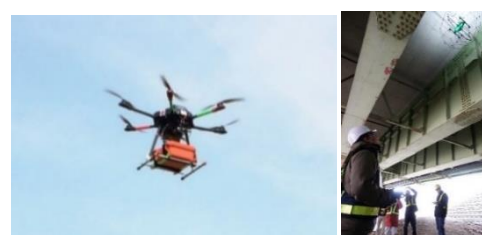
▼都市公園内への保育所設置
の提案から全国制度化(H29)



▼外国人の起業に係る事業所要件の
拡充緩和(R2)



▼医薬品搬送、津波避難広報等
様々なドローン実証実験を実証(H29～)



▼オンライン診療・オンライン服薬
指導実証実験(R2)



背景と経過

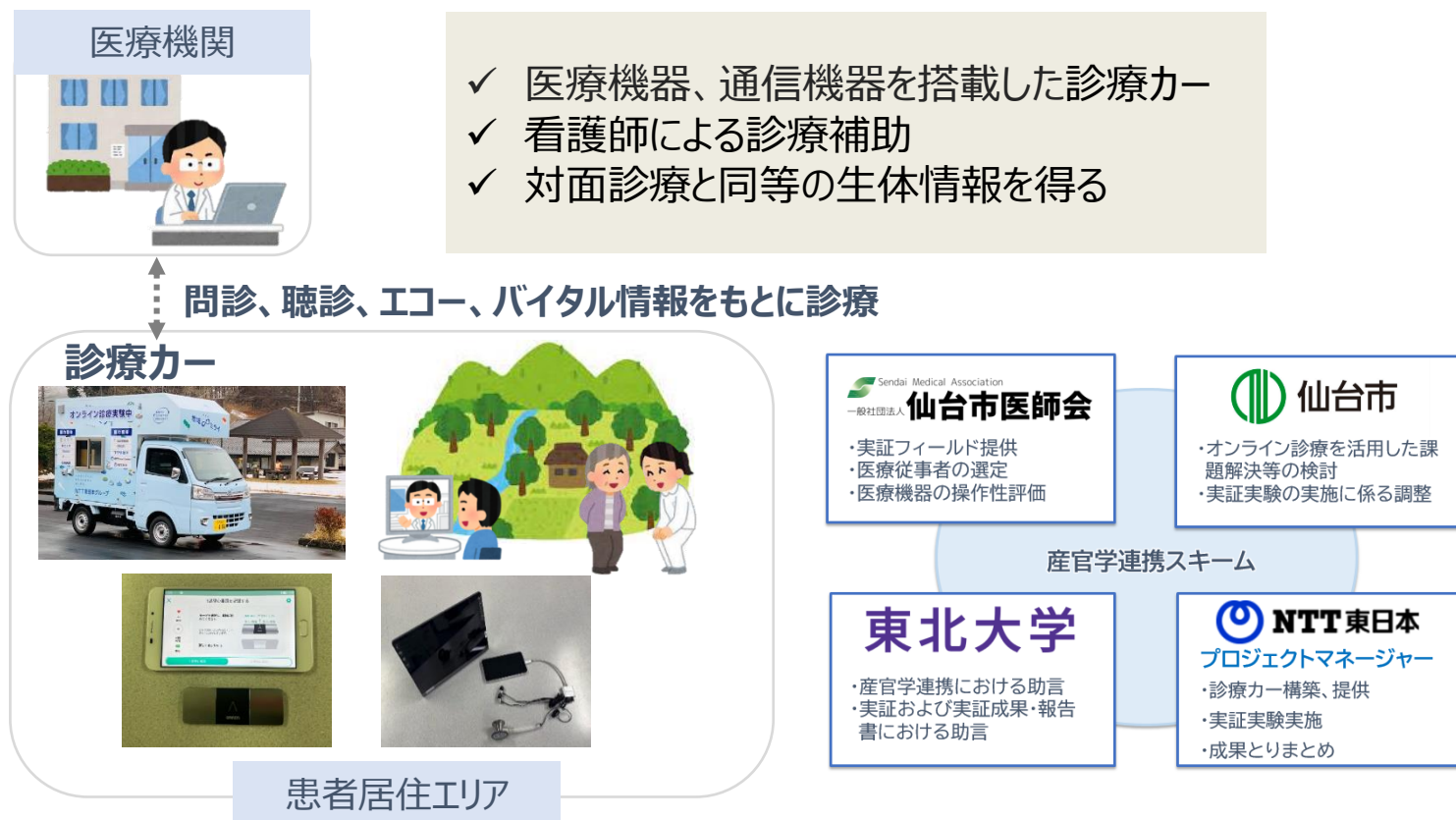
- 仙台市では、将来的な医師不足等へ対応するため、平成30年度からオンライン診療PJを始動
- 令和2年度に医師対患者(D to P型)による実証実験を実施し、有効性と課題を明確化
- 令和4年度には「患者側と医療側の双方が受け入れやすい簡便なオンライン診療」をテーマに、医療機器を搭載した車両に看護師が同乗し診療補助を行う「D to P with N型」オンライン診療の実証を実施

実証実験 (D to P型)



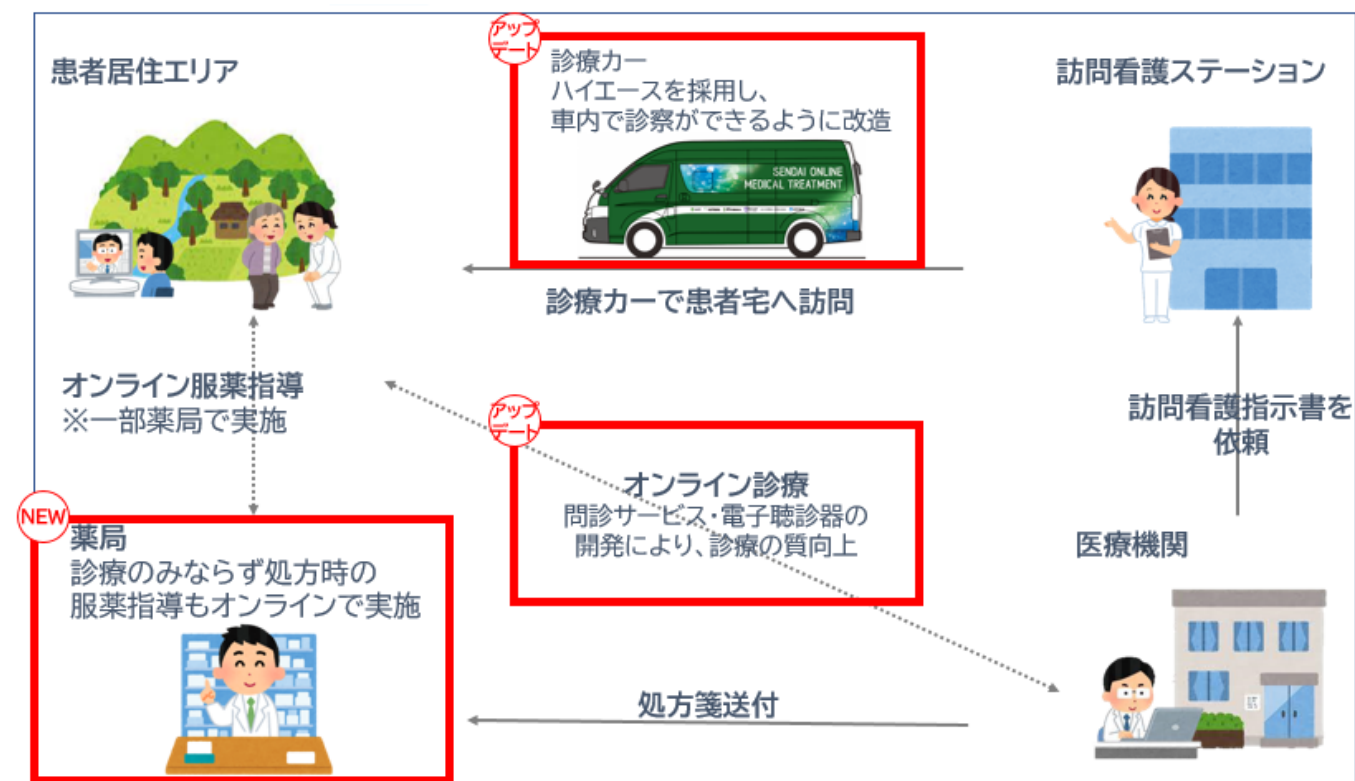
- ✓ 慢性疾患患者への有効性
- ✓ 聴診やバイタル情報などが無いため、対面診療と質的な差分

診療カーを用いた「D to P with N」型



プロジェクト概要

- これまでの実証結果を踏まえ、オンライン診療実施に適する車両や医療機器を新たに構築
- 国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、仙台市の「防災環境“周遊”都市・仙台モデル推進事業」の一環として社会実装
- 令和5年11月からサービス開始



ポケットエコー



パルス
オキシメーター



心電図計



電子聴診器



画像診断（心臓など） 血中酸素飽和度測定

プロジェクトの特徴

①産学官連携による取り組み



仙台市医師会



公益財団法人

仙台市薬剤師会



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学

TOHOKU UNIVERSITY



仙台市



宮城県

ほか民間企業6社

②機器へのこだわり

▼テレプレゼンスシステム「窓」



テレプレゼンスシステム「窓」の特徴

- ・縦型等身大映像による臨場感の創出
- ・空間の広がりを伝え高音質な同時双方向会話の実現
- ・会話の遅延を感じさせないチューニング
- ・遠隔診療での実運用実績あり

▲独自の電子聴診器（開発中）



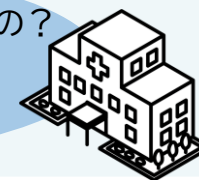
プロジェクトの特徴

③規制改革提案

オンライン診療は制度面で様々な障壁がある。

⇒こうした課題をクリアしていかなければ、普及につながらない。

診療報酬は対面と比べてどうなの？
実施できる場所は？
認められる診療内容は？



<令和5年度>

①診療カーを用いたオンライン診療を効率的に実施できるよう、実施場所の拡大などの環境整備に関する規制緩和を提案。

⇒オンライン診療によって住民の受診機会が確保されると都道府県が認めた場合は、へき地等に限らず医師が常駐しないオンライン診療は可能。

②診療カーによるオンライン診療の際、より対面診療に近い形を目指し、心電図や超音波検査等の検査も行うため、医学管理等の診療報酬料の算定を可能とすることを提案。

⇒オンライン診療における心電図検査や超音波検査といった検査を実施することが医学的に妥当と判断される場合には、診療報酬の算定は可能であることが明らかに！

<令和6年度>

へき地のみ認められている「看護師等遠隔診療補助加算」について、へき地に該当しない地域においても同様の診療報酬算定とすることを提案。

⇒医療リソースのへき地への誘導という政策的観点による要件のため、提案実現は困難。

しかし、本市提案をきっかけに、

「医師の指示のもと、看護師等が血液検査を実施した場合の費用算定については、当該検査の実施が医学的に妥当と判断される場合には診療報酬を算定できる」

ことが初めて明らかに！

これまでの取り組み

■様々な患者に対応するための診療力一機能強化（第2世代交付金を活用）

車内改造

主な内容

- モニター周辺収納
- 手すり設置工事
- 折畳みテーブルへ変更
- 跳ね上げ式イスへ変更
- 跳ね上げ式ベッドへ変更
- 既存壁面・床面補修



小型ディスプレイ「小窓」



ウェアラブルカメラ



対話支援システム



ドローン薬剤配送

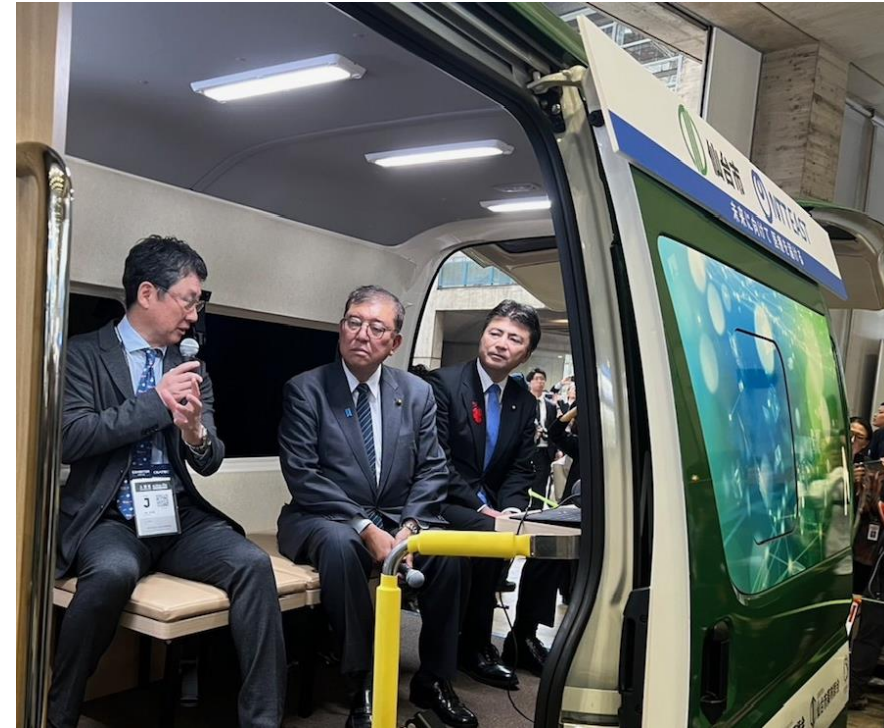


■広域連携実証（宮城県の参画）

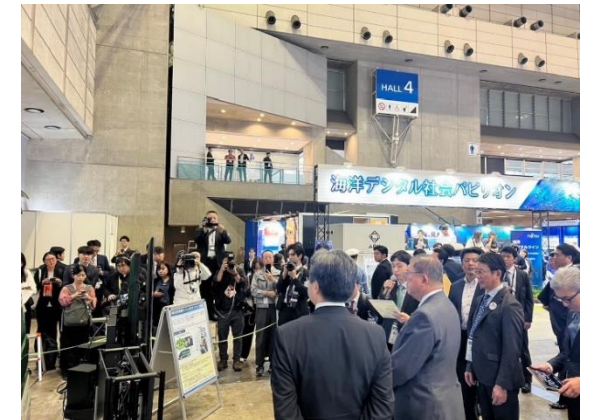
- ・ 宮城県と連携し、より医師不足が深刻な地域での実証を行うことで、すそ野拡大を図る。
- ・ 気仙沼市において郵便局の駐車場を活用した診療デモンストレーションを実施。



CEATEC2025への出展 -石破総理(当時)が来場-



- CEATEC開催の全26回のうち、現役の総理大臣がCEATEC会場に来場されるのは初。総理自らオンライン診療の取り組みを視察したいとの希望があり、当ブースへ来場いただいた。
- 仙台市より事業の概要を説明した後、診療カー車内に入られ、仙台市医師会(当時)の安藤会長より機能等を説明。
- 実際にヘッドホンを着用され、電子聴診器の心音を体験いただいた。

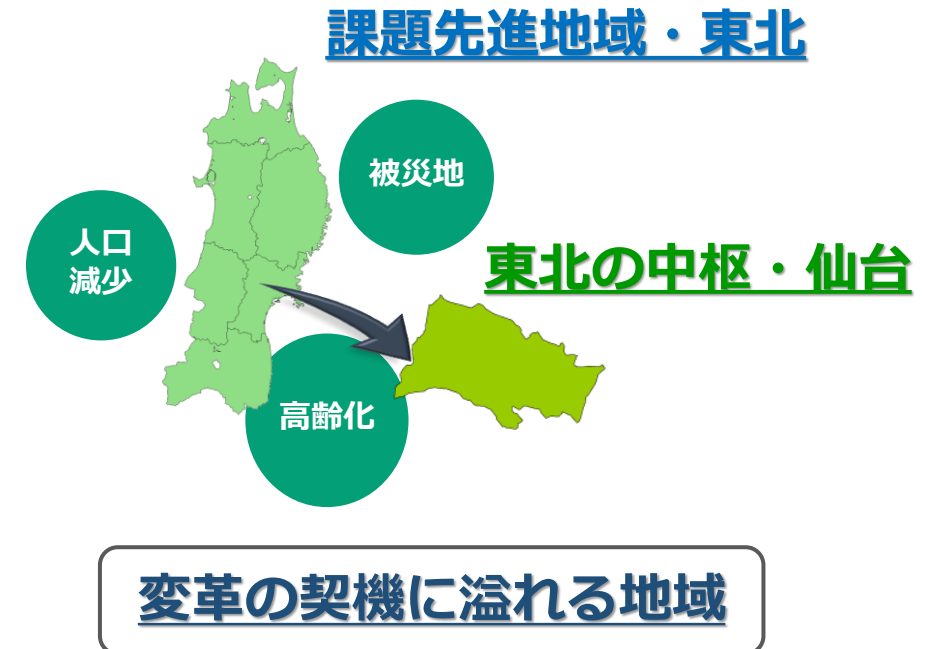


診療カーにおける搭載機器

診療項目	サービス	メーカー
問診	・ テレプレゼンスシステム 「窓」	MUSVI
	・ テレプレゼンスシステム 小「窓」	MUSVI
バイタル	・ 上腕式血圧計 HCR-7501T ・ パルスオキシメータ HPO-300T ・ 音波通信体温計 MC-6800B	オムロンヘルスケア
聴診器	・ 試作品の改良に向け、 仙台市医師会安藤会長・東北大の支援により開発中	ミュージナル
	・ JPES-01 + SmartCure(スマートキュア)	JPステート スマートゲート
超音波診断装置	・ 超音波画像診断装置 ポケットエコーmiruco	日本シグマックス
心電図	・ 携帯型心電計 HCG-8060T	オムロンヘルスケア

プロジェクトの成果と展望

- オンライン診療を通じて蓄積した制度・運用面の知見や産学官ネットワークを東北・全国へ展開
- 国家戦略特区も活用し、医療・介護分野における先端技術の社会実装と地域課題解決を推進



より効果的な地域課題の解決

仙台・東北発の
先端的なサービスの創出

市民のWell-beingの向上

東北・日本の未来を切り拓くフロンティアへ